

定 数 16 人に対し 18 人が立候補した与謝野町議会議員一般選挙は、3 月 31 日の告示以降、町内全域で選挙戦が繰り広げられ、開票の結果、16 人の町議会議員が当選。翌 6 日には、当選証書附与式が役場本庁舎で行われ、町選挙管理委員会の波尻敏男委員長から当選証書が手渡されました。

新たな議員の皆さんは、5 月 12 日に開催予定の臨時議会から新体制のもと、与謝野町のまちづくりに取り組まれます。

※ 任期：令和 8 年 4 月 16 日～ 12 年 4 月 15 日の 4 年間

☎ 選挙管理委員会事務局（総務課内／☎ 43-9010）

※ 氏名（50 音順・敬称略）、住所、所属、満年齢、現=現職・元=元職・新=新人）

			
あだち たねお 安達 種雄	いえき いさお 家城 功	いしの ようこ 石野 洋子	いとい まさと 糸井 雅人
岩屋 無所属 80 現	三河内 無所属 61 現	幾地 日本共産党 68 新	岩滝 無所属 64 新

					
いまい こうすけ 今井 浩介	えばら ひでき 江原 英樹	おくの みつとし 奥野 光敏	そのだ けんじ 園田 研斗	なかえ まさなお 中江 正直	ながしま ひろみ 永島 洋視
三河内 無所属 44 現	三河内 無所属 89 元	弓木 無所属 64 新	後野 無所属 41 新	三河内 無所属 66 新	金屋 日本共産党 71 現

					
のむら しろうはち 野村 生八	みやざき ゆうへい 宮崎 有平	むくひら なおやす 椋平 直康	やの かずき 矢野 一樹	やまざき まさふみ 山崎 政史	わだ ひろしげ 和田 裕之
三河内 日本共産党 73 現	岩滝 無所属 75 現	弓木 無所属 53 新	滝 無所属 43 新	岩屋 無所属 44 現	石川 無所属 51 現



波尻委員長から当選証書を受け取る当選者

開票結果

- 有権者数 16,245 人
- 投票者総数 10,744 人
- 投票率 66.14%
- 有効投票数 10,403 票
- 無効投票数 341 票
- 持ち帰りと思われる票数 0 票
- 不受理の票数 0 票

● 候補者別得票総数（得票数順・届出順）

園田 研斗 1,953 票	山崎 政史 488 票
石野 洋子 1,035 票	奥野 光敏 423 票
糸井 雅人 914 票	和田 裕之 389 票
椋平 直康 708 票	宮崎 有平 388 票
永島 洋視 616 票	中江 正直 361 票
矢野 一樹 611 票	今井 浩介 302 票
野村 生八 567 票	江原 英樹 210 票
安達 種雄 567 票	三田 義幸 167 票
家城 功 566 票	杉上 忠義 138 票

与謝野町議会議員 一般選挙

**住民の代弁者
16人が決定!!**

与謝野町議会議員の任期満了に伴う一般選挙が 4 月 5 日に行われ、投開票の結果、16 人の議員の皆さんが選出されましたのでご紹介いたします。



＼ 加悦鉄道コラム /

一本の老松がつなぐ、 駅名板と碁盤の物語——。

あの駅名板のヒミツ、 ご存じですか？

与謝野駅（旧駅名：丹後山田駅）の丹後山田駅資料室には、当時の駅名板が展示されています。現在の駅名板と比べると、デザインが大きく異なります。

この駅名板は、駅前にあった老松から作られたと伝えられており、大きな一枚板に駅名が彫り込まれています。文字のデザインのもととなった墨書は、足立喜郎さんによるものです。足立さんは「圭岳」という雅号をお持ちでした。雅号とは、書道家や画家、華道家が本名とは別に用いる名前のことです。当時、足立さんが丹後山田駅近くの会社に勤務されていたことから、この墨書を依頼されたようです。



丹後山田駅の駅名板

あだちしろう
足立喜郎さんによるものです。足立さんは「圭岳」という雅号をお持ちでした。雅号とは、書道家や画家、華道家が本名とは別に用いる名前のことです。当時、足立さんが丹後山田駅近くの会社に勤務されていたことから、この墨書を依頼されたようです。



切り株が宝物に？ もう一つの物語

足立さんには墨書のお礼として、駅名板の材料となった老松の「切り株」が贈られました。足立さんはこれを大変喜ばれ、その切り株から碁盤（写真左）を製作されました。老松は木材として市場に出回ることが少なく、たいへん貴重な素材とされています。また松は 1 年を通して青々とした葉を保つ常緑樹であり、不老不死や長寿の象徴として、古くから縁起が良いものとされています。

※ 令和 9 年 3 月 31 日まで旧尾藤家住宅で展示しています

受け継がれてきた大切なおもい

足立さんが大切にされてきた碁盤は、甥の大槻安幸さんへ当時のエピソードとともに託されました。安幸さんもまた、この碁盤を大切に保管されました。令和 8 年 1 月、安幸さんが逝去されたことを受け、ご子息の大槻有三さんから、与謝野町へ寄贈いただくこととなりました。生前、安幸さんはご自身の死後の碁盤の行方を大変気にかけておられていたようで、ご親族はこの寄贈を遺志に近いものと話されています。

駅名板と碁盤がつなぐ“とき”のロマン

老松の 1 枚板から作られた重厚で立派な駅名板と、その切り株から生まれた味わい深い碁盤。どちらも、加悦鉄道の歴史を今に伝える貴重な品です。もしかすると、右の写真に写る松がその材料となった木なのかもしれません。



開業間もないころの丹後山田駅（出典：創立百周年記念誌 野田川町立山田小学校）